

第3回死生懇話会

「死」「生」は誰のもの？
個人だけのもの？
自分らしい生き方って？

「死」は隔離されたものになった？

第3回では、身近な人を亡くすということにも向き合いながら、「死」というものを暮らしや地域の中で遠ざけず、生きていることをより大切に、一緒に生きていることに意味を持たせていく…、そうしたことについての議論を深めていきたいと考えています。

2021年11月21日(日)

(サテライト会場) 滋賀県大津合同庁舎7B会議
※オンライン聴講あり

14:00~16:30

議事

時間は前後することがあります

- 14:00 開会・出演者紹介
- 14:05 開会にあたって(滋賀県知事 三日月大造)、事務局からの説明
- 14:15~14:45
ゲストスピーカー 野々山 尚志さん(グリーフサポートあいちこどもの森 代表)
講演「身近な人をなくした子どもとそのご家族へ~自分らしく生きていくために~」
- 14:45~15:15 出演者による意見交換
- 15:15 休憩
- 15:25~16:20 出演者による意見交換

ご聴講の皆様からもご意見・ご感想をいただきながら、前半に引き続き意見交換

→ご聴講の皆様からもコメント(ご感想、ご意見、ご質問など)を受付させていただきます。時間の関係上、一部ではございますが、懇話会の中で取り上げさせていただきます、それについて出演者で議論させていただく予定です。

- 16:20 議論の振り返り
- 16:30 閉会

アンケートにご協力をお願いします。

ご聴講いただきました後、アンケートにご協力いただき、ご意見・ご感想をお聞かせいただけますと幸いです。以下のURLまたはQRコードより、アンケートシステム(しがネット受付サービス)にお入りいただけます

【アンケート】

<https://ttzk.graffer.jp/pref-shiga/smart-apply/surveys-alias/21ca00030105>



主催

滋賀県総合企画部企画調整課 企画第二係

TEL 077-528-3312 メールアドレス kikaku02@pref.shiga.lg.jp

ゲストスピーカー 野々山 尚志 さん グリーフサポートあいちこどもの森 代表

大学生の頃からあしなが育英会大学奨学生として、病気・災害・自死等の遺児支援に携わるのをきっかけに、東海地方の小中学生遺児のつどいを開催したり、自死遺族の自助グループに運営委員として携わる。2005年より愛知県公立中学校教諭。2015年より同小学校教諭。いのちの教育・協同の学び・自殺予防教育の研究・実践に携わる。2018年、身近な人を亡くした子どもと保護者が安心して集える場を地元愛知県につくるため、「グリーフサポートあいちこどもの森」を立ち上げ、活動している。



身近な人を亡くした子どもとその家族が、安心して自分の気持ちと向き合いほっと一息できる止まり木のような場を作りたいという考えで設立された。

主な活動内容：グリーフサポートプログラムの開催/ファシリテーターの養成/グリーフサポートの普及と啓発/ネットワークづくり

ワンデイプログラムに参加されるお子さん 一緒に活動して下さる方募集中

連絡先 HP▶<https://www.gsakodomonori.org/>
mail▶griefsaichi@gmail.com



「死生懇話会」委員 (50音順)

青柳 光哉 さん 滋賀県立大学人間看護学部4年生

滋賀県立大学で看護師を目指して勉強中。「死」や「生」をどう捉えるのか、若い世代の視点から議論に参加いただきます。



越智 眞一 さん 一般社団法人 滋賀県医師会 会長

京都府立医科大学を卒業後、病院勤務を経て、大津市内にて開業。以来、開業医として地域住民の疾病予防や健康管理に精力的に従事してきた。大津市医師会の役員として介護保険制度への対応や認知症施策の充実に貢献、2008年4月大津市医師会会長に就任。2010年4月からは滋賀県医師会理事を務め、救急災害医療体制の整備を行政とともに推進する活動に尽力、2018年4月に滋賀県医師会会長に就任し、滋賀県の保健・医療・福祉の向上と充実に努めている。

楠神 涉 さん 滋賀県介護支援専門員 連絡協議会 副会長

主任介護支援専門員、社会福祉士、介護福祉士。2001年より介護老人福祉施設で勤務。地域との連携をより深められないかと2007年にNPO法人加楽を設立。東近江市内の田園地区で、高齢者向けの居宅介護支援、通所介護、介護保険外事業や地域活動などを行っています。

「子ども、お年寄りも、障がい者も外国人も、みんなで地域のことを考えていければと思います」



藤井 美和 さん 関西学院大学人間福祉学部人間科学科 教授 (死生学研究者)

研究領域は、死生観、クオリティー・オブ・ライフ (QOL)、スピリチュアリティ。新聞社勤務中、神経難病を発症。全身麻痺となり、半年の入院、2年半のリハビリを経験。これが死生学領域に関心を持つきっかけとなる。1994年関西学院大学大学院社会学研究科修了後、フルブライト留学生としてアメリカ、セントルイスのワシントン大学 (Washington University) 博士課程入学。1999年Ph.D. (博士号) 取得。主著に「死生学とQOL」(単著)。「たましいのケア-病む人のかたわらに」(共著)、「生命倫理における宗教とスピリチュアリティ」(共編著)。

ミウラ ユウ さん NPO法人 好きと生きる 理事 一般社団法人子どもエンターテインメント 代表理事

20代から各ボランティアに参加。結婚後10年間の不妊治療を経て緊急帝王切開で長男を出産。生きて生まれる確率3%といわれる難病で生まれた。長男が5歳の頃から病児を持つ保護者の悩みを傾聴するボランティアを始める。2018年 一般社団法人子どもエンターテインメントを設立。外出困難や入院中の子どもにエンターテインメントを届ける事業を展開。福祉とエンターテインメントの融合により人々を幸せにするプログラム、子どもの人権について学ぶ機会を提供。また社会との関わりが困難な人のための居場所提供を実施。



ファシリテーター 上田 洋平 さん 滋賀県立大学 地域共生センター 講師



滋賀県立大学卒業(1期生)。滋賀県立大学大学院人間文化科学研究科地域文化学専攻博士課程単位取得退学。専門は地域文化学・まちづくり。風土に根ざした暮らしと文化の研究と実践に取り組む一方、地域と連携した人材育成や「地域共育」プログラムの開発も手掛ける。住民が協力合って地域の暮らしの物語を「屏風絵」として描き上げるまちづくりの手法「心象図法」を開発。

「死によって別たれるのではなく、死をも分かち合うことによって結ばれるのが人間であり、人間の共同体とはそこに発生するのではないかと思います」

滋賀県知事
三日月 大造



死生懇話会 ～「死」を捉えた「生」のあり方を考えるヒントに～

滋賀県では、死生懇話会のご紹介とあわせて、「死」「生」に関する様々な取組、考え方について色々な方にインタビューさせていただいた取材記事等を県ホームページでご紹介しています。

「死生懇話会」の
詳細はこちらの
QRコードから

